

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800218		
法人名	株式会社 ファミリー中部		
事業所名	グループホームファミリー		
所在地	岐阜県土岐市泉町定林寺962-76		
自己評価作成日	平成29年8月25日	評価結果市町村受理日	平成29年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2171800218-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームファミリーという名前通りに、家庭的な雰囲気を提供を目指しています。利用者様の意思を尊重しそれぞれの利用者様が安心して生活を送っていただけるように努めています。健康面では、協力病院からの往診や日々の体調チェック等によって健康に過ごして頂けるようにしています。開所して16年間の認知症介護に対する知識を日々の利用者様の生活に生かします。笑顔・ゆっくり・傾聴・共感・情報公開を基本理念にしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、交通量の多い国道沿いに立地しており、周辺には住宅は少ないが、近隣の工場や複数の企業と、災害時の協力関係を結んでいる。民家を再利用した家屋と庭は、落ち着いた家庭的な雰囲気があり、利用者は、馴染みある生活環境の中で、穏やかな日々を過ごしている。利用者の中には、生活保護受給者や家族が遠方に住む人も多いが、経済面や心理的にも不安がないように支援をしている。そして、協力医による往診や訪問看護との医療連携の下で、健康で安心な生活が送れるように実践をしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の仕事の中で意識付けするように心がけています。適時、具体的に管理者やケアマネより理念をスタッフに伝えるようにしています。	理念は「家庭的な雰囲気の中でゆったり」とし、玄関に掲示をしている。職員は、日々、ケアの中で理念の意義を確認し合い、共有し、利用者に寄り添いながら傾聴に努め、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周辺は、公園と工場が立ち並んでいる地区なので、日常的な地域との関わりは薄いですが、地域からの職場体験などは受け入れています。	事業所周辺には、民家は少ないが、近隣の企業とは、応分のつきあいをしており、自治会にも入っている。また、中学生の職場体験を受け入れたり、地元の寺社祭りや運動会に利用者と共に参加をし、交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回の運営推進会議を開催して、地域の民生委員さんをはじめとして、認知症介護に関する啓蒙活動をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	具体的なホームの日常を報告して、助言をいただき、それをスタッフ全員で共有出来るように議事録については、ユニットごとに回覧しています。	周囲に住宅街がないため、地域住民の参加は少ないが、運営推進会議には、行政、民生委員、区長、家族が参加している。ホームの日常を報告し、会議に参加しやすい日程調整や、課題を話し合い、それらを運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の制度上の事柄を、市の介護保険課に問い合わせ助言を頂いたり、空き部屋が出たときなど包括支援センターに紹介をお願いしたりしています。	行政と地域包括支援センターからは、リスク管理や口腔ケアの研修案内、空室の問い合わせ等がある。また、生活保護受給者の入居問い合わせや紹介、困難事例等で、介護保険課と連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々介護関係のニュースや通達をチェックして、虐待防止の資料を添えて全スタッフに回覧する体制をとっています。また、会議や申し送りノートを活用して、利用者様に対するサービスのチェックも行っています。	職員は、内・外部の研修で身体拘束の弊害を学び、拘束をしないケアを行っている。利用者の庭への出入りは制限せずに、温かく見守っている。転倒の恐れがある利用者の場合は、家族の同意を得て、予防対策を行うが、短時間で解除している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に、何が虐待にあたるのかを資料で確認することを行っています。また、常に管理者の重点チェック項目として意識しています。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、成年後見人制度を利用されている利用者様がいますので、日々後見人さんとの連絡で、実地に学ぶ機会となっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できるだけ時間をかけて説明に心がけています。また利用者様やご家族が話しやすい雰囲気になるように世間話を交えながらの説明を進めて、疑問点を言いやすいように工夫しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の設置と、ホームの玄関口に苦情受付箱を設置しています。また、介護相談員の方の訪問を月一回受け入れをしています。運営推進会議の場もこれに対応しています。	法人内に第三者委員会があり、玄関には、苦情箱を設置している。家族の訪問時には、気軽に意見を言ってもらえるよう雰囲気づくりに努めており、要望があれば、リーダーに伝え、出来ることは速やかに取り入れ、改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も現場に入り、日常的に職員の話聞くようにしています。また提案ノートを設定して、意見の表明の場としています。その他には会議でテーマに沿っての提案の集約を行っています。	職員会議では、テーマを設けて話し合っている。また、日常は、「提案・気づきノート」に書き込む仕組みを取っている。職員からの意見や要望については、その都度、相談に乗りながら、気持ちよく働ける職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価シートを使い、自己評価と管理者評価を突き合わせて、勤務状況の把握とステップアップに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	評価シートの活用と、適時のケアマネからの認知症介護についての研修資料の提供を行っています。またホームに届く研修情報も回覧し重要性の高いものに関しては、法人負担の研修派遣も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会員になり、他のグループホームの方との交流を図っています。兄弟会社の有料老人ホームの管理者と日常的に協力関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークなどの時は、生活されている場に出向く事を基本にして、話しやすい雰囲気の中で気持ちを表現して頂けるように配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が身構えないような雰囲気を出して、些細な事でも話して頂けるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の生活スタイルをお聞きする中で、問題点を探り、適正な生活空間はどのようなものかをイメージして、ホームでの生活を作ることを基本としています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様と共に生活させて頂き日常生活の家事を分担していただく事に感謝する姿勢を持ちます。また人生の先輩として敬う気持ちを持ちます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間は設定していますが、自由にホームに来て頂いたり、内科以外の通院をご家族と連絡しあい行ったりしています。また、行事の参加もお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人様が面会に来られた時は、個室にて談話出来る様に設定していますが、実際のところ来られる方は少ないです。	利用者の友人や知人も、高齢化により、訪問者は減少しているが、家族や親戚が訪れ、温泉や外食、馴染みの美容院などへ、一緒に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団で行える余暇運動を設定して利用者様の関係を築けるように支援しています。また、食事の席なども、気の合う人を考慮して設定しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、次の生活の場でスムーズに馴染めるように情報提供を行ったり請求に応じて各種の相談に乗っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本人の希望を聞き出し、ケアマネに情報提供してケアプランに生かしています。また、ケアマネが利用者様と直接お話を聞く機会も設定しています。	日々の生活の中で、利用者一人ひとりの思いを拾い上げ、好きなことや得意なことを、楽しみながら出来るよう支援している。把握した思いは、職員間で共有をしている。困難な人は、表情や動きを観察しながら、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴をお聞きするとともに、入居後もご家族様とスタッフがお会いする機会にも、適時お話を聞きます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡ノートや介護記録を通して、利用者様の一日を把握するとともに、異変についても注意を払っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフの情報把握表と課題提供表を基にして介護計画見直し表を作成し、計画作成担当者が介護計画として起こし、ご家族に提示しています。	介護計画は、職員とケアマネジャーの意見やモニタリングを踏まえて作成し、家族に提示している。利用者のニーズを把握する評価やモニタリングに課題もある。	サービス担当者会議や、家族との面談を通して、個々の心身の状態や必要なニーズを話し合い、介護計画の中に、より反映できるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼夜の個人記録を作成して日々多方面からの視点を職員間で共有しています。それらを基にして、各表を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活施設として、利用者様の生活を作る視点を大切にしています。また、利用者様の状態像の変化に応じて、次の生活拠点の相談援助もいたします。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の要望によりお店での買い物代行にもお応えしています。地域で活動しているボランティアさん受け入れによって、楽しみの提供にも努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様と協力医院との契約に基づいて、月2回の往診時に、スムーズに診察が受けられるように準備する体制を確保しています。	入居前のかかりつけ医継続か、協力医へ変更するかは、家族が選択をしている。月2回の協力医による往診と訪問看護体制があり、適切で安心な医療を受けられるよう支援している。他科への受診は、家族の同行を原則としているが、緊急時は、職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約して、定期的に利用者様の健康チェックをしていただき、協力医院と連携していただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は馴染みのスタッフが病院を訪問して、状況把握に努めています。また、適時、病院の相談員さんと連携して対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアとしては、位置づけはありませんが、結果的には終末期ケアとなったケースはあります。今後の課題として位置づけられる項目です。	重度化と終末期については、ホームで生活ができるまでを条件とし、常時、医療行為が必要であれば、病院、他施設への転居を支援している。老衰で自然な看取りは行なったが、基本的には、看取りはしない方針であり、家族の同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内に、病気や事故、地震、火災等の緊急事態に即した対応マニュアルを設置しています。また、火災・避難訓練も定期的の実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	土岐市発行の災害マップを各ユニットに置いています。また、夜間の緊急応援体制も作っています。	災害時の避難・誘導等について、近隣工場に、協力を依頼している。食品や備品を確保し、連絡網を整えている。年に2回の訓練では、避難誘導や初期消火、通報などを行い、実践力を高めている。	種別の災害や異常気象に備えた、総合的な防災マニュアルを見直し、家族にも周知することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の重度の方の年長者として敬います。入浴は、個別入浴を設定しています。失敗体験につながらないように注意して対応します。	職員は、接遇事項を順守し、尊厳とプライバシーを損ねない言葉かけと対応をしている。利用者との会話では、目線を合わせ、笑顔で語りかけ、時には、ジェスチャーを交え、意思の疎通を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が職員を信頼していただき、様々な生活場面で、思いを伝えて頂けるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ちょっと待っててという言葉をしてできるだけ少なくなるようにしています。また、言葉で表現できない方も様子に注意して居室で休んで頂いたり対応をして、強制的に日課への参加はしません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に適した服装や、女性の方には好みのヘアピンを使って頂いたり細かい部分での対応も視野に入れていきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の個々の咀嚼の力を配慮して、刻み食などで食べやすさも提供しています。メニューも偏りのないよう配慮しています。また、高齢者の方が好むメニューの提供を心がけています。	食材には、利用者の食べたい物を取り入れ、家庭的な味付けで調理をしている。できる人は、豆の筋とりや下ごしらえを手伝っている。職員は、見守りと、楽しい雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量とその日の水分摂取量のチェックを行い、摂取量の落ちている方は協力医院と連携して補助食品で栄養補給も行っていきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケアと義歯の方には、ポリドント等の付け置きも行っていきます。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を基にして、排便排尿感覚の弱い方は、トイレへの定期誘導を行っています。夜間も状況に応じてトイレ誘導を行っています。	個々の排泄レベルを維持し、声かけ誘導で、排泄の自立につなげている。日常は、立位を支援、体操や廊下の伝え歩きを、こまめに行なっている。夜間は、その人の状態に合った排泄ケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策として、食事のメニューに果物等のメニューを設定したり、繊維質の多い食物を提供したりしています。また、協力医院と連携して対応します。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に曜日の設定をしていますが、状況や希望に応じて、入浴は、柔軟に対応しています。	入浴は、本人の身体状態や希望に合わせ、重度者には、リフトを利用して、安全に入浴を楽しめるよう支援している。ゆっくり入れるよう、朝風呂の日を週に3回設け、嫌がる人には強制せず、時間や日にちを変えるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況や年齢を考慮して、日中も居室で横になれるように対応しています。各居室にエアコンを設置して、温度計を見ながら快適に過ごせるように空調の調節をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬情報と往診結果に目を通して、適正に利用者様が服薬できるように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野の活動を提供しています。また、日光浴や夕涼み、季節の行事などの提供で気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に沿っての外出を提供していますが、現状では、回数は減少傾向です。	中庭での外気浴を日課にしている。また、周辺の野花を摘んだり、どんぐり拾いをするなど楽しみながら散歩している。また、家族の協力を得て、職員と共に外出に行ったり、年間行事としては、初詣や季節の花見に出かけたり、「お月見の会」などを行っている。	

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、ホームが立て替える形式をとっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて、ご家族様からの電話に出てくださいたりすることもあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は昭和のレトロな雰囲気のあるものなので、馴染みの空間になりやすい利点を生かして、生活感を演出するようにしています。また、季節感は、テーブルに花壇に咲いた季節の花を飾っています。	リビングを中心に、トイレや洗面所は、機能的に配置されており、職員が利用者の動きを見守りやすい設計である。テーブルには、庭の花を飾り、季節感が感じられる。国道沿いではあるが、騒音もなく、落ち着いて暮らせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの席などで、気の合う者同士でおしゃべりができるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の意向を考慮して居室づくりを行っています。	居室は、本人が使いやすいように、テレビや家具を配置し、タンスの上には、家族の写真を飾っている。清潔保持のため、職員は、利用者と共に掃除や片づけを行うなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の扉にはお名前を掲示し、トイレもわかりやすく表示しています。廊下には手すりを設置しています。		